



<p>凡例</p> <p>広域避難場所 Large Scale Evacuation Area</p> <p>一時避難場所 Temporary Evacuation Area</p> <p>避難所 Evacuation Center</p>	<p>一時滞在施設 Temporary Stay Station</p> <p>給水拠点 Water Supply Base</p> <p>救護所 First Aid Station</p> <p>避難所 Evacuation Center</p>	<p>消防出動所 Fire Station / Branch Fire Station</p> <p>警察署 Police Station</p> <p>消防団出動所 Volunteer Fire Brigade Station</p> <p>交番 Koban (Police Box)</p> <p>救急医療機関 Emergency Medical Institution</p>	<p>市役所(災害対策本部) City Office (Disaster Management Headquarters)</p> <p>警察署 Police Station</p> <p>消防団出動所 Volunteer Fire Brigade Station</p> <p>交番 Koban (Police Box)</p> <p>救急医療機関 Emergency Medical Institution</p>	<p>全国 AEDマップ</p> <p>日本救急医療財団全国AEDマップをこちらで買いただけます</p>
---	--	---	---	--

土砂災害警戒区域等拡大図

大地震発生時の対応

大地震発生時の対応フローチャート。火災や自宅倒壊の危険がある場合は、一時避難場所や広域避難場所へ避難し、大規模火災等の危険が迫ってきた場合は、一時避難場所や広域避難場所へ避難し、避難所へ避難する。また、ペットの同行避難も可能である。

避難するにあたって

- 必ずしも避難する必要はありません。大地震が発生しても、火災や自宅倒壊などの危険がなければ、避難する必要はありません。家族や隣近所の人たちの安否確認を行い、被害がある場合は消火・救出活動を行ってください。
- 市からの情報やテレビ・ラジオなどからの報道を、しっかりと確認しましょう。誤った情報や噂話に惑わされないようにしましょう。
- 一人で見えない。家族や隣近所の人たちに声をかけて、一緒に避難しましょう。また、要配慮者（高齢者・障がい者・乳幼児など）がいる場合には、複数の人で協力して一緒に避難してください。
- ヘルメット（なければ防災きんや帽子など、頭を守るもの）をかぶり、服装は長袖シャツ・長ズボン、手袋を着用して、体が露出する部分を最小限にしましょう。青いヘルメットやヘルメットにヘルメットをかぶる袋に詰め、リュックサックなどに収納し、貴重品や身分証明書も忘れずに持ちます。

避難場所等一覧

名称	所在地	一時避難場所	土砂災害	索引
小金井第一小学校	本町 1-1-6	△	△	E-5
小金井第二小学校	桜町 2-3-58	△	△	D-3
小金井第三小学校	観野町 5-7-1	△	△	G-4
小金井第四小学校	真井南町 3-9-1	△	△	B-5
東小学校	東町 4-25-6	△	△	G-5
前原小学校	前原町 3-4-22	△	△	C-6
本町小学校	本町 5-29-21	△	△	C-4
緑小学校	緑町 4-15-39	△	△	F-3
南小学校	前原町 2-2-1	△	△	E-7
小金井第一中学校	桜町 2-3-15	△	△	D-3
小金井第二中学校	中町 1-8-25	△	△	E-6

浸水深の色の見方

浸水深の色の見方と水深の目安。5.0m以上の浸水深は、2階の軒下までつかかる程度。3.0mは、1階の軒下までつかかる程度。2.0mは、1階の軒下までつかかる程度。1.0mは、1階の床までつかかる程度。0.5mは、1階の床までつかかる程度。0.1mは、1階の床までつかかる程度。

土砂災害（特別）警戒区域とは

この地図は、「野川、仙川、入船川、谷川及び丸子川流域浸水予想区域図」(石神井川及び白子川流域浸水予想区域図)(東京都都市型水害対策連絡会作成)及び「北多摩一号処理区、北多摩二号処理区流域浸水予想区域図」(東京都下水道局作成)を使用し、想定される最大降雨(使用量 60mm、時最大雨量 153mm)が降った場合に、浸水が予想される区域と想定される水深を表したものです。

急傾斜地崩壊危険箇所とは

傾斜 30°以上、高さ 5m以上の斜面で、けがれが発生した場合に人家などの被害のおそれがある箇所を指します。

地域危険度測定調査について

東京都では、地震に強いまちづくりを進める参考として、また、都民の皆さんに防災への関心を高めるため、概ね5年毎に「地震に関する地域危険度測定調査」を実施し、調査結果を公表しています。※今年で8回目の公表となります。(平成30年2月発表)

地域危険度の種類

この調査では、都内の各地域(5,177町丁目)において、建物の倒壊と火の2つの危険性について5段階の相対評価を行い、危険度の高さを明らかにしました。

火災危険度

建物の構造や密集具合などから火災の発生可能性と延焼の危険性を測定して示したものです。

災害時活動困難度

災害時の避難や消火・救援活動のしやすさ(困難さ)を示したものです。

右図では総合危険度の各ランクを下記の色分けて表示しています。あなたのまちの地域危険度の詳細については、下記のホームページにアクセスするか、東京都都市整備局へお問合せください。

地震に関する地域危険度測定調査
https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/boasai/chousa_6/home.htm
 【問合せ先】 東京都都市整備局 市街地整備部 防災都市づくり課 電話 03-5320-5003